

平成 31 年度 事業報告

若竹学園 園長

宮竹 恒

1、重点課題について

＜小学校、中学校の分校化について＞

高松市教育委員会より、分校化によって教員数の増加が見込まれ、個々に応じた教育活動を充実するうえで有効であるとの判断を頂き、設置に向けて協議をすすめております。

分校を設置する上で必要な普通教室、特別教室の整備について高松市教育委員会と協議を継続して行っておりますが、施設整備に必要な敷地面積の確保が学園敷地内で困難な場合は、近隣で設置可能な場所を探す予定です。令和 2 年度中に高松市教育委員会に設置場所及び整備内容について承諾を得て、令和 3 年度に分校設置を行う所存です。

＜高校生の受け入れについて＞

令和元年度につきましては、高校生の入所打診はありませんでした。在籍していた中学 3 年生 4 名の内 3 名は（1 名は家庭引き取り）、志望する高校への通学を考え他施設へ措置変更を行いました。男子 1 名につきましては、亀山学園 地域小規模施設「圓の家」に措置変更して高校進学としました。

2、子どもの受け入れ状況等について

年度当初は、在籍 13 名でしたが、徐々に入所児童数が増加し、令和 2 年 3 月 1 日には、27 名の在籍でした。令和元年度は、香川県内の入所児童数の割合が増え、特に小学生が例年より増えました。入所児童数は増加しましたが、分級には 5 月 1 日付け在籍数で教員が配置されていた為、複式・複々式での授業が増え、子どものへの負担がありました。高松市教育委員会には、分校化と合わせて、講師の派遣依頼を行いました。下笠居小学校・下笠居中学校からも講師派遣の要望をしており、令和 2 年 1 月より小学校分級に講師 1 名が派遣されることになりました。中学校につきましては、教員 2 名、支援員 1 名から教員数が増えなかったため、校長先生が英語の授業を行いました。

在籍していた中学 3 年生 4 名の内 3 名が私立高校に合格し、1 名が定時制高校に合格しました。私立高校に合格した内 2 名は、不登校の期間があり、学習に対する自信を持っていませんでしたが、自主学習も行い、志望校に合格することが出来ました。

令和元年度より、児童相談所より緊急一時保護の打診を受けることがあり、入所を前提としない一時保護の受け入れを行いました。

3、生活部門について

＜自立支援計画作成方法について見直しについて＞

香川県子ども女性相談センター 域連携支援室室長 藤原 誠 氏を招き内部研修を行いました。自立支援計画の作成の手順、内容の見直しは令和 2 年度も引き続き行い、日々の支援に反映していきます。

<子どもの主体性を尊重する活動・行事の取り組みについて>

行事ごとにアンケートを行い、子どもの希望を取り入れるようにしました。若竹学園夏祭りに於いては、子どもたちがテーマを決め、希望していたステージ発表を行いました。和太鼓・ダンスの披露、漫才を行い、参加された方々から拍手を頂いたことが自信につながりました。女兒より浴衣を着て夏祭りに参加したいと希望があった為、香西地域の夏祭りに初めて参加しました。

日々の余暇活動の一環として、フットサル、ドッジボール、ソフトバレー等の集団で行うスポーツ活動を行いました。子どもは、自分で選択した活動に参加し、活動を通してルールや対人関係を学びました。

昨年度から参加している「四国 88km リレーマラソン（於：国営讃岐まんのう公園）」に希望者が参加し、一般部門で 2 位となり、子どもたちは次年度の参加も希望しています。

子どもの自己肯定感を高める活動として、新たに子どもから希望があったダンス活動を始めました。希望した子どもは積極的に練習に参加し、ダンス教室主催の発表会に 2 回参加することが出来ました。

また、日本舞踊師範の方の厚意（ボランティア）で着物の着付けを学ぶ機会を得ることができました。参加した女兒は着物の着付けを学ぶとともに地域の方の温かさに触れ、親密な交流を図ることができました。

令和元年度は、子どもたちが地域とつながる活動が増えたことが良かった点です。

4、心理部門について

子どもの特性に応じて、ソーシャル・スキル・トレーニングを行いました。また、セラピストの知識と技術の向上を図る為、障害者支援施設「香川県ふじみ園」で行われているソーシャル・スキル・トレーニングの見学研修を行いました。

子ども同士の対人スキルの向上を目的にグループワークを行い、参加した子どもたちが互いの意見を伝えられる時間を設けました。

セラピストの心理面接技術の向上を図る為、亀山学園セラピストと合同で毎月、心理専門家によるスーパーバイズを受けました。

家族療法棟につきましては、親子面接での利用はしましたが、宿泊を伴う家族療法を行うことが出来ていない為、令和 2 年度の重点課題として取り組む所存です。

5、関係機関との連携

徳島大学より依頼を受け、公認心理士養成のために施設実習受け入れを初めて行いまし

た。

青年療法士まちづくり塾に参加されている理学療法士、作業療法士の方と協力して太鼓活動を通して子どもと高齢者の方が交流する機会をつくりました。活動には、専門学校から学生ボランティアの方も参加されました。

6、社会貢献

和太鼓の活動を継続して行い、社会貢献の一環として高齢者施設の慰問活動を3か所行いました。1か所につきましては、青年療法士まちづくり塾の方と共同で実施しました。

遍路小屋の活動は、分教室の授業にも取り入れて頂き、お接待、清掃活動を継続して行いました。

子育て支援員研修に職員を講師として派遣し、地域の人材養成に貢献しました。

7、その他

- ・消防計画の見直しを行いました。
- ・富士産業と協力し食育活動を行い、季節の食材に応じた調理実習をしました。
- ・新型コロナウイルス感染対策として、子どもに手洗い・うがいを促し、受診等の必要な外出をする場合は、マスクの着用・手指消毒を行いました。